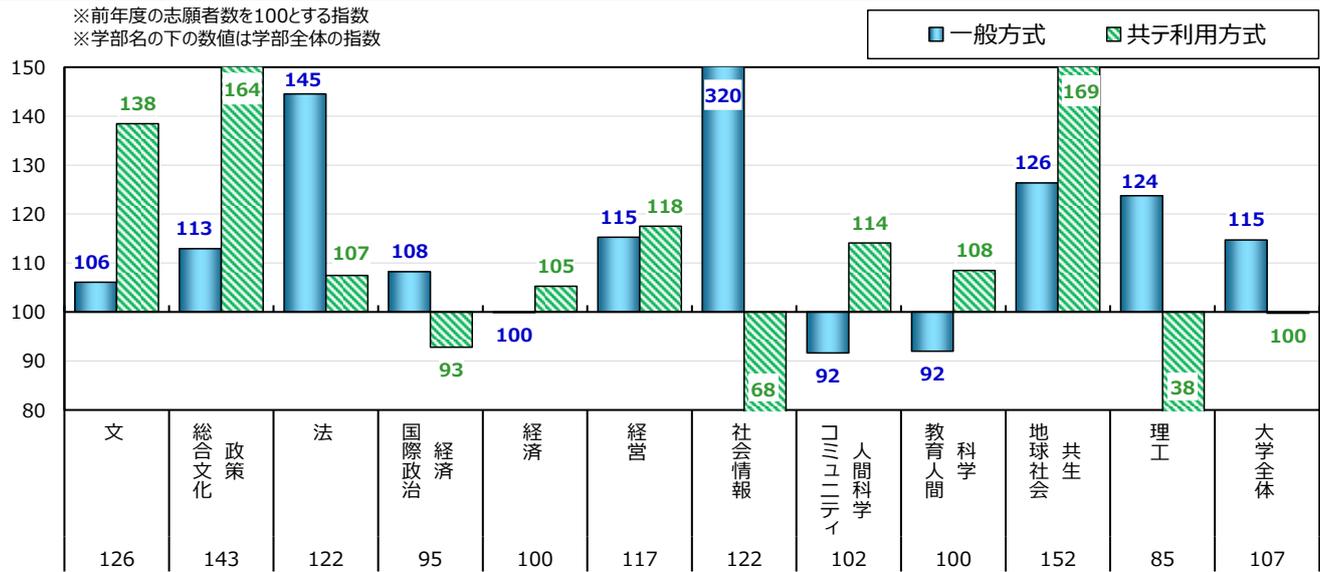


青山学院大：大学全体ではやや増加で、2年ぶりに増加

一般：+3,218人 共テ：-57人



**主な入試変更点** 選抜方法：社会情報(社会情報)  
 <学部個別B>…<共テ>国+外、<個>数→<個>数+外 ※<共テ併用>→一般方式  
 <学部個別C>…<共テ>数+外、<個>数→<個>数+外 ※<共テ併用>→一般方式  
 <学部個別D>…<共テ>外+(国 or 歴公)、<個>総合問題→<個>外+総合問題 ※<共テ併用>→一般方式  
 理工<学部個別B>…<共テ>外、<個>数+理→<個>数+理+外 ※<共テ併用>→一般方式

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、3,161人(107)のやや増加で2年ぶりに増加。学部別では、11学部中8学部が増加。その中で、地球社会共生(152)、総合文化政策(143)、文(126)、法(122)、社会情報(122)、経営(117)の6学部は大幅増加。一方で、理工(85)は大幅減少。方式別では、一般方式は3,218人(115)の大幅増加。<全学部>(109)は2年ぶりに増加、<学部個別>(120)は社会情報と理工で一部の募集単位が<共テ併用>から一般方式への変更の影響で大幅増加。共通テスト利用方式は57人(100)の微減で前年度並。<共テ利用>(114)は増加。一方で、<共テ併用>(87)は社会情報と理工で一部の募集単位が<共テ併用>から一般方式への変更の影響で減少と対照的。

**<一般方式>**

- 文(106)**は、前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。志願者数は再び2,100人をわずかに上回った。学科別では、5学科中3学科が減少で5学科全てが前年度と逆の増減。(比較芸術)(89)は減少、(日本文)(94)、(史)(95)はいずれもやや減少。一方で、(フランス文)(175)は前年度激減の反動で激増。(英米文)(102)は前年度並。
- 総合文化政策(113)**は、<全学部>のみの募集だが、2年連続減少の反動で増加。志願倍率は13.8倍→15.6倍にアップ。
- 法(145)**は、<全学部>のみの募集だが、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(ヒューマンライツ)(303)は前年度激減の反動で約3倍増、新設3年目で過去最多の志願者数。(法)(111)は前年度大幅減少の反動で増加。4。
- 国際政治経済(108)**は、<全学部>のみの募集だが、前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、3学科全てが増加。
- 経済(100)**は、前年度やや減少の反動はなく前年度並。学科別では、(経済)(97)はやや減少で3年連続減少。(現代経済デザイン)(112)は前年度大幅減少の反動で増加。
- 経営(115)**は、<全学部>のみの募集だが、大幅増加。2019年度以降、前年度の反動による大幅増減が継続。学科別では、(経営)(126)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(マーケティング)(100)は2年連続増加の反動はなく前年度並。
- 社会情報(320)**は、<学部個別B>、<学部個別C>、<学部個別D>を<共テ併用>から一般方式へ変更したことで3.2倍増。それぞれ、前年度の<共テ併用>時代との比較では、<学部個別B>(154)、<学部個別C>(123)は大幅増加、<学部個別D>(52)はほぼ半減。独自問題の「数+外」で受験可能な2募集単位の大幅増加が目立った。既存の<全学部>(94)は2年連続やや減少。文系型の<全学部A>(87)は2年連続増加の反動で減少。一方で、理系型の<全学部B>(111)は増加、2020年度以降、前年度の反動による増減が継続。
- コミュニティ人間科学(92)**は、<全学部>のみの募集だが、前年度大幅減少に引き続きやや減少。
- 教育人間科学(92)**は、<全学部>のみの募集だが、前年度やや増加の反動で減少。学科別では、(教育)(88)は前年度増加の反動で減少。(心理)(100)は前年度減少の反動はなく前年度並。
- 地球社会共生(126)**は、<全学部>のみの募集だが、前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率は、5年ぶりに10倍を上回った。
- 理工(124)**は、前年度の<学部個別A>と<全学部>に加えて、新たに<学部個別B>を<共テ併用>から一般方式へ変更した結果、大幅増加。ただし、既存の方式のみでは(90)で2年連続減少。方式別では、<学部個別A>(90)、<全学部>(92)のいずれも2年連続減少。また、<学部個別B>を前年度の<共テ併用>時代との比較では2人(100)の微増で変化はなかった。既存の方式合計での比較による学科別では、7学科中5学科が減少。特に、(機械創造工)(71)、(数理サイエンス)(79)、(情報テクノロジー)(85)はいずれも大幅減少。

**<共通テスト利用方式>**

- 文(138)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。方式別では、<共テ利用>(175)は前年度大幅減少の反動で激増、<共テ併用>(118)は前年度減少の反動で大幅増加、新設2年目の<共テ6科目型>(99)は前年度並。学科別では、5学科全てが増加。特に、(フランス文)(228)は倍増以上、(史)(138)、(比較芸術)(126)、(日本文)(119)は大幅増加。

- 総合文化政策(164)**は、前年度大幅減少の反動で激増。方式別では、<共テ併用>(134)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、<共テ利用>(207)は前年度大幅減少の反動で倍増以上。
- 法(107)**は、やや増加。方式別では、<共テ併用>(104)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。<共テ利用>(110)は増加。学科別では、新設3年目の(ヒューマンライツ)(227)は前年度大幅減少の反動で倍増以上。一方で、(法)(85)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 国際政治経済(93)**は、2年連続やや減少。方式別では、<共テ併用>(85)は大幅減少で2年連続減少。<共テ利用>(98)は4年連続減少の反動は小さく前年度並。学科別では、(国際経済)(76)は大幅減少、(国際政治)(94)はやや減少。一方で、(国際コミュニケーション)(115)は大幅増加。
- 経済(105)**は、<共テ利用>のみを実施だが、前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加。学科別では、(現代経済デザイン)(322)は前年度激減の反動で3倍増以上。一方で、(経済)(87)は5年連続減少で志願者数は600人を下回った。
- 経営(118)**は、大幅増加で2年ぶりの増加。方式別では、<共テ併用>(104)はやや増加で3年連続増加、<共テ利用>(150)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。学科別では、(経営)(134)は前年度減少の反動で大幅増加。一方で、(マーケティング)(88)は前年度大幅増加の反動で減少。
- 社会情報(68)**は、<学部個別B>、<学部個別C>、<学部個別D>を<共テ併用>から一般方式へ変更したことで、大幅減少。この変更を除くと、(145)の大幅増加。特に、<共テ利用>(165)は前年度大幅減少の反動から激増。
- コミュニティ人間科学(114)**は、前年度の倍増に引き続き増加。方式別では、<共テ併用>(164)は2年連続大幅増加、<共テ利用>(77)は前年度ほぼ3倍増の反動で大幅減少。
- 教育人間科学(108)**は、増加。方式別では、<共テ併用>(135)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、<共テ利用>(93)はやや減少で前年度の反動による増減が継続。学科別では、(心理)(121)は大幅増加、(教育)(102)は前年度並。
- 地球社会共生(169)**は、前年度大幅減少の反動で激増。方式別では、<共テ併用>(110)は増加、<共テ利用>(251)は前年度大幅減少の反動で約2.5倍増。
- 理工(38)**は、<学部個別B>を<共テ併用>から一般方式へ変更したことで激減。この変更を除いた<共テ利用>(63)のみでも2年連続増加の反動で大幅減少。<共テ利用>のみの学科別では、7学科中、前年度並だった(物理科学)(102)と(電気電子工)(100)を除いた5学科が大幅減少。特に、(機械創造工)(37)は前年度倍増以上の反動で激減。